

英語教育研究の始め方・進め方：目的に合致した手法選択の重要性

浦野 研（大学院英語学専攻客員教授／北海学園大学）

email: urano@hgu.jp

Outline

1. はじめに
2. 研究（research）とは
 - 2.1. 研究の目的（goal）
 - 2.2. 実践としての研究と学術的研究
3. 研究課題の設定方法
4. 研究の種類
 - 4.1. 探索と検証
 - 4.2. データと解釈
 - 4.3. データ収集法
 - 4.4. 分析・解釈
 - 4.5. データの種類
 - 4.6. データの要約
 - 4.6.1. 質的アプローチ
 - 4.6.2. 量的アプローチ
 - 4.6.2.1. 推測統計（有意性検定）
 - 4.6.2.2. 母集団と標本
 - 4.6.2.3. 無作為抽出・無作為割付
5. 日本の英語教育研究
 - 5.1. Mizumoto, Urano, & Maeda (2014)
 - 5.2. 浦野他 (2012)
6. 教育的示唆
7. 研究以外の選択肢
8. 探究的实践
9. 全体のまとめ

References

- Allright, D. (2003). Exploratory Practice: rethinking practitioner research in language teaching. *Language Teaching Research*, 7, 113–141. <https://doi.org/10.1191/1362168803lr118oa>
- Mizumoto, A., Urano, K., & Maeda, H. (2014). A systematic review of published articles in *ARELE* 1–24: Focusing on their themes, methods, and outcomes. *ARELE*, 25, 33–48. https://doi.org/10.20581/arele.25.0_33
- 日本社会心理学会広報委員会. (2016). 心理学研究の再現性に関する論争. Retrieved from: <https://sites.google.com/site/jssppr/home/reproducibility>
- Nunan, D. (1992). *Research methods in language learning*. Cambridge University Press.
- 竹内理・水本篤 (編). (2014). 『外国語教育研究ハンドブック: 研究手法のより良い理解のために (改訂版)』 東京: 松柏社.
- 田中武夫・高木亜希子・藤田卓郎・滝沢雄一・酒井英樹. (2018). 『英語教師のための実践研究ガイドブック』 東京: 大修館書店.
- 浦野研・酒井英樹・高木亜希子・田中武夫・藤田卓郎・本田勝久・亘理陽一. (2012). 英語教育研究法の過去・現在・未来. 第42回中部地区英語教育学会岐阜大会・課題別研究プロジェクト.
- 浦野研・亘理陽一・田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・酒井英樹. (2016). 『はじめての英語教育研究: 押さえておきたいコツとポイント』 東京: 研究社.
- 吉田達弘・玉井健・横溝紳一郎・今井裕之・柳瀬陽介 (編). (2009). 『リフレクティブな英語教育を目指して: 教師の語り that 拓く授業研究』 東京: ひつじ書房.



本日の資料のダウンロードはこちら